



MATSUZAKA KEIKO

自由奔放でありながらも、
悲しみや苦しみを胸に秘めている。
私の演じた節子という女性は、
長崎の街そのもののような気がします。

プロフィール まつざか けいこ
昭和27年、東京都生まれ。14歳で劇団ひまわりに入団。昭和47年、19歳でNHKドラマ「若い人」でヒロインを演じ、ゴールデングローブ賞新人賞を受賞。昭和56年の「青春の門」、昭和57年の「道頓堀川」「蒲田行進曲」で2年連続日本アカデミー賞最優秀主演女優賞を受賞したほか、平成2年の「死の棘」でも同賞を受賞。そのほか、数々の賞を受賞。数多くの映画・テレビドラマ・舞台と幅広く活動するなど、現在、日本を代表する女優として活躍中。

金子ノ映画の冒頭に
たくさんの小さな灯籠が水面を静かに流れていく幻想的なシーンがあります。お聞きしたところ、あのシーンには、まだ被爆の惨禍から立ち直っていない時の精霊流しをイメージして作られたそうです。原爆が落

この感動を長崎から全国へ

を背負っています。でもその反面、とても開放的で明るい街ですよね。ボランティアの皆さんにも感じたことなのですが、長崎の人には、辛いことがあっても笑ってはね返すような生命力を感じます。愛する人、親しい人を失って迎えるお盆。ほんとうは悲しくてたまらないのに、豪華な船と爆竹で、華やかな精霊流しにしてしまう。そこに良く表現されているような気がします。そう考えると節子という女性は、まさに長崎の街そのものだったのではないのでしょうか。



PRESENT

映画「精霊流し」鑑賞チケット

映画「精霊流し」の鑑賞チケットを抽選でペア50組100名様にプレゼントします。ご希望の方は、ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号をお書きのうえ、次のあて先までご応募ください。

〒850-8570 長崎県広報広聴課
「ながさき夢百景『精霊流し』チケット」係
締切 平成15年9月30日(火)必着
発表は発送をもってかえさせていただきます。

とされた翌年の昭和二十一年には、精霊流しが行われています。もちろん豪華な精霊船は作れない。しかし、長崎の人たちは小さな灯籠の船を作って、大波止から流したそうです。それほど精霊流しは、長崎の人たちにとって思い入れの深いものなんです。松坂ノとても感動的なお話ですね。この映画もそんな長崎の人たちの思いと心の叫びが聞こえてくるような素敵な映画になりました。見終わったときに、ほんとうに心が温まっているようなこの映画を、一人でも多くの方にご覧になっていただきたいと思えます。

金子ノ「精霊流し」は、九月十三日からの長崎での先行上映をかわきりに、十一月には九州各地、そして十二月からはお正月

KANEKO GENJIRO

一度目は感動的なストーリーと演技を、
二度目は随所にてでくる風景を堪能する。
「精霊流し」は二度楽しめる映画ですね。



解できます。こんなお料理はどこにもありません。それとちよつと三月の桃の節句で、桃カステラを見つけた。可愛さと珍しさにひかれて、いろんな方にお送りしましたが、とても喜んでいただきました。主人公櫻井雅彦(の内田朝陽さん)もチャンポンがよほど気に入ったと見えて毎日のように通ってらっしゃいましたよ。

金子ノ食の素材に恵まれているという点では、長崎はほんとうに自慢できます。魚はもちろんです。肉や野菜にも良いものがたくさんあります。素材が良いから、料理も加工品もすばらしいものができます。しかし全国的にはなかなか知られていなかった。これが悔しくて、知事になってすぐに、そういった産品をブランド化して売り出す取り組みを始め、いま一生懸命やっています。

「石田節子」に投影する長崎のひかり

を秘めているという非常に難しい役柄だったと思います。ずいぶんご苦みなさったのではないですか。

松坂ノ前半の節子は、快活でも自由奔放な女性に見えます。それが実は、被爆、最愛の人の別離という悲しみや苦しみを胸に秘めて生きていることが分かってくる。愛してやまない息子との別れも待っています。そして最後は、血液のガンにおかされて亡くなってしまいます。おっしゃるように、とても難しく、でもそれだけにやりがいがありました。

金子ノ原爆資料館や浦上天主堂にも足を運ばれたとお聞きしましたが、これもそういう役づくりのためだったのですか？

松坂ノ役づくりというより、節子の悲しみや苦しみの原点となった被爆というものを私なりに理解したかったのです。原爆資料館では被爆の惨状を知ることができました。また如堂を訪ねたときは、永井博士から直接お話をうかがったような感銘を受けました。特に浦上天主堂で被爆したマリア様の石像を拝見したときには、私が演じた石田節子という人間が



口ヶ現場所を訪れた金子知事

抱えている長崎の悲しみについて、啓示をうけたような感動がありました。

金子ノ映画の中で特に印象的だったのは、息子の春人の葬儀とそれに続く深夜の路面電車のシーンです。節子の経営するジャズバーで、今日は賑やかにやっていると、ジャズを流しながら葬儀を営む。そのあと深夜に、たった一人で操車場に行つて、無人の路面電車の中で号泣する、あのシーンです。自由奔放な節子と悲しみに生きる節子の姿を、松坂さんが淡々と演じられていて、上映会でももらい泣きする方が多かったようです。

3 桃カステラ
桃の形をしたカステラを砂糖蜜で桃色に色づけした長崎ならではの菓子。長崎では「桃の節句」のときに飾ったり、女兒の出産祝いのお返しに贈る。8